

青銅器のつくり方を学ぼう!

かすがし せいでうき どうか どうけん せいでうき どうく み せいでうき
春日市では、青銅器（銅戈や銅剣など）や青銅器をつくるための道具がたくさん見つかっています。青銅
器をつくる工房の跡も見つかり、当時の最先端技術を使って青銅器をつくっていました。



青銅器ってどんなふうにつくられていたのかな？

青銅器がどうやってつくられていたのかをイラストでみていこう！色々な青銅器がつけられていたよ。



〈青銅器のつくりかた〉

せいでうき
青銅器をつくるにはまず、石をほりこんで
つくれた いた 固定し、その中に溶
かした銅とすずの合金（青銅）を流し込んで
いきます。

その後十分に冷やして、鋳型から取り出
します。取り出した青銅器は、いらぬ部分
を取り除き、表面を磨いていきます。

磨いてきれいになった青銅器は木の柄（持
ち手部分）をつけて完成です。

1 鋳型に金属を流し込んでいるよ

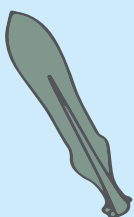


3 できた青銅器に持ち手をつけて、完成！！

2 青銅器を鋳型から取り出しているよ

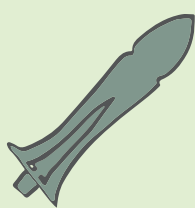
〈青銅器のいろいろ〉

● 銅矛（どうほこ）



なが え さ こ
長い柄を差し込んでやり
のようにつかう武器

● 銅戈（どうか）



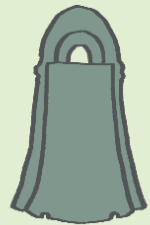
かま は え たい
鎌のように刃を、柄に対
して直角もしくは鈍角に
つけてつかう武器

● 銅鏡（どうきょう）



たい めん おもて うらめん
平らな面が表で、裏面には
ヒモを通す穴を持つつまみ
（鈕）や模様がある

● 銅鐸（どうたく）



かね すず なか
鐘や鈴のように中の
舌を鳴らしてつかう

その他にもたくさんの青銅器を作っていたよ！



なこく おか ねきしりょうかん はちがつ ねきしたいけん なこく
奴国の丘歴史資料館では、8月にわくわく歴史体験「奴国せっけんづ
くり」を実施しました。この体験では、弥生時代に行われていた青銅器
づく ほうほう べんきょう 型に透ぬい なが こ まがたま
造りの方法を勉強するため、型に透ぬい（鈕）を流し込んで、「勾玉
や「銅鐸」の形のせっけんを作りました！

